

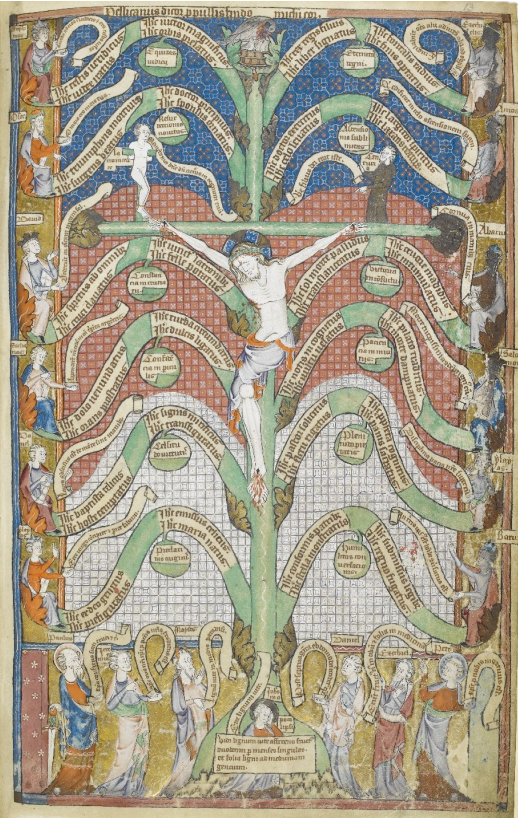
上智大学神学部・上智大学文学部フランス文学科
筑波大学大学院人文社会科学研究科哲学・思想専攻 共催

セドリック・ジロー学術講演会

中世キリスト教靈性における 〈情動性 affectivité〉

2018年2月17日（土曜日） 16時45分～19時

上智大学四谷キャンパス 2号館410教室



Cédric Giraud氏（ロレーヌ大学大学史学科上級准教授）は、1977年生まれ。2002年、フランス国立古文書学校卒業。専門はヨーロッパ中世史。とりわけ中世から近世にかけての靈性の変遷に詳しい。代表作に『師の言葉を介して：十二世紀におけるランのアンセルムスとその学派』（2010年、Brepols社）の他、Etudes augustinienes叢書から、擬アウグスティヌスの『ソリロキア』『提要』と擬ベルナルドゥスの『瞑想』を中心とする大著『擬作家による瞑想関連コーパスの誕生と変遷：中世から近世に至る靈性とテキスト史』を2016年に上梓（いずれも未邦訳）。また、フランス・ガリマール社刊プレイヤッド叢書からは、十一世紀から十五世紀までの瞑想に関するアンソロジーを刊行予定。三年目を迎えた日本学術振興会科研費基盤B研究課題「中世後期から近世初期までの〈メディアタチオ〉に関する国際協働による哲学史的総合研究」（研究代表者・谷川多佳子）の一環として、ヨーロッパ中世の靈性における情動性／情愛（affectivité）についてご講演いただく。ストア主義との関連を皮切りに、『靈的友愛について』で知られるリーヴォーのエルレドゥス、さらにはフランシスコ会総長ボナヴェントゥラを中心に、マリー・ドワニー、マルゲリータ・ダ・コルトーナ、アントウェルペンのハデウエイヒ、ナザレトのベアトリスなどの女性神秘家、ヤコブス・デ・ウォラギネ、フィオーレのヨアキム、さらにはサン＝ヴィクトルのフーゴーなどへの言及も含めたダイナミックな中世史のパノラマを堪能いただきたい。講演はフランス語で行われるが、フランス語オリジナル原稿ならびに日本語訳原稿を配布予定。質疑応答には逐次通訳がつく予定。事前予約不要かつ無料にて来聴歓迎。お問い合わせは、筑波大学人文社会系准教授・津崎良典（tsuzaki.yoshinori.gn@u.tsukuba.ac.jp）まで電子メールにて。